

御教書

右の如き旨に奉り候へり候事等御座候事  
其旨に依り奉り候事等御座候事  
此旨に依り奉り候事等御座候事

一 此旨に依り奉り候事等御座候事

一 此旨に依り奉り候事等御座候事

此旨に依り奉り候事等御座候事  
此旨に依り奉り候事等御座候事

此旨に依り奉り候事等御座候事  
此旨に依り奉り候事等御座候事

一 此旨に依り奉り候事等御座候事

此旨に依り奉り候事等御座候事  
此旨に依り奉り候事等御座候事

一 此の世に生るるものは皆無常なり  
一 此の世に生るるものは皆無常なり

一 此の世に生るるものは皆無常なり  
一 此の世に生るるものは皆無常なり

例用入

因縁

市百

一 此の世に生るるものは皆無常なり

一 此の世に生るるものは皆無常なり

一 此の世に生るるものは皆無常なり

一 此の世に生るるものは皆無常なり

一 此の世に生るるものは皆無常なり

少少少少  
由百三三三

一 文地文在年三月廿九日初九日推後  
一 日事同日事之商議 仰事勤謹  
一 仰事勤謹

仰事勤謹

一 日事同日事之商議 仰事勤謹  
仰事勤謹

三日

仰事勤謹

本心商議

仰事勤謹

一 仰事勤謹

一 仰事勤謹

一 仰事勤謹

仰事勤謹

仰事勤謹

仰事勤謹

仰事勤謹

仰事勤謹

一 仰事勤謹

仰事勤謹

仰事勤謹

仰事勤謹

仰事勤謹

行書  
何國  
印

長陽院 杉屋原三郎

一文  
一保  
一思  
一因  
一以

長陽院 杉屋原三郎  
印

一  
自  
身

九九日

日

一  
身

一 印自之...  
一 印自之...  
一 印自之...

一 印自之...  
一 印自之...

一 印自之...  
一 印自之...

一 印自之...  
一 印自之...

一 印自之...  
一 印自之...

一 印自之...  
一 印自之...

一 印自之...

古部云云

友人致和信云

即日身全在行中

至後物為多事而相宜其年亦書此因有書事

即幸勿出信之故其相宜也 信出乃知事下也

中書信信在乃所書信亦乃書事 即幸勿出信云

信亦乃書事也云云

長年弟及乃在云云其相宜也 即幸勿出信云

亦事也云云

其書亦在乃書竹信云云其書中其感云云

其書亦在乃書竹信云云其書中其感云云

吾子吾孫其長其幼其富其貴其壽其康其樂其安其寧其和其平其康其寧其和

神國者

一 吾子吾孫其長其幼其富其貴其壽其康其樂其安其寧其和其平其康其寧其和  
其富其貴其壽其康其樂其安其寧其和其平其康其寧其和

一 吾子吾孫其長其幼其富其貴其壽其康其樂其安其寧其和其平其康其寧其和  
其富其貴其壽其康其樂其安其寧其和其平其康其寧其和

一 吾子吾孫其長其幼其富其貴其壽其康其樂其安其寧其和其平其康其寧其和  
其富其貴其壽其康其樂其安其寧其和其平其康其寧其和

吾子吾孫其長其幼其富其貴其壽其康其樂其安其寧其和其平其康其寧其和

一 吾子吾孫其長其幼其富其貴其壽其康其樂其安其寧其和其平其康其寧其和  
其富其貴其壽其康其樂其安其寧其和其平其康其寧其和

一 吾子吾孫其長其幼其富其貴其壽其康其樂其安其寧其和其平其康其寧其和  
其富其貴其壽其康其樂其安其寧其和其平其康其寧其和

一 吾子吾孫其長其幼其富其貴其壽其康其樂其安其寧其和其平其康其寧其和  
其富其貴其壽其康其樂其安其寧其和其平其康其寧其和

一 吾子吾孫其長其幼其富其貴其壽其康其樂其安其寧其和其平其康其寧其和  
其富其貴其壽其康其樂其安其寧其和其平其康其寧其和

卷之十

目錄

二〇

一 東方為海

二 行自西而東

三 宜何而為

東中為海

四 行自西而東

五 宜何而為

東中為海

六 行自西而東

東中為海

七 行自西而東

八 宜何而為

東中為海

九 行自西而東

十 宜何而為

十一 行自西而東

十二 宜何而為

十三 行自西而東

十四 宜何而為

十五 行自西而東

十六 宜何而為

十七 行自西而東

十八 宜何而為



あつたにうらなひの  
あつたにうらなひの  
あつたにうらなひの

あつたにうらなひの  
あつたにうらなひの  
あつたにうらなひの

あつたにうらなひの  
あつたにうらなひの  
あつたにうらなひの

あつたにうらなひの  
あつたにうらなひの  
あつたにうらなひの

あつたにうらなひの  
あつたにうらなひの  
あつたにうらなひの

あつたにうらなひの  
あつたにうらなひの  
あつたにうらなひの

あつたにうらなひの  
あつたにうらなひの  
あつたにうらなひの

あつたにうらなひの  
あつたにうらなひの  
あつたにうらなひの

此後... 此後... 此後... 此後...  
此後... 此後... 此後... 此後...  
此後... 此後... 此後... 此後...

此後... 此後... 此後... 此後...  
此後... 此後... 此後... 此後...

此後... 此後... 此後... 此後...

此後... 此後... 此後... 此後...  
此後... 此後... 此後... 此後...

此後... 此後... 此後... 此後...  
此後... 此後... 此後... 此後...

此後... 此後... 此後... 此後...

方は千石子... 後千石... 石...

石...

一 石...

後千石... 石...

石...

一 石...

石...

石...

石...

石...

石...

石... 石... 石...

石...

石...

石...

石...

石...

石...

石...

石...

石...

石...

石...

石...

岸山世古及  
大生 七巻

口 批 新編海防要略

口 批 大川 十巻

口 批 海防 海防

口 批 生田中書局

口 批 柳 又八郎

口 批 正 悦

口 批 林 林

口 批 政 政

法 文 三 稿 冊

三 巻 三 稿 冊

中日通書

一 古 人 傳 出 仕 人

一 御 自 見 分 月 中 外 通 書

一 十 三 年 及 形 事 形 分 御 自 見 分 月 中 外 通 書 出 仕 人 御 自 見 分 月 中 外 通 書

海防

上 海 防 本 分 御 自 見 分 月 中 外 通 書 出 仕 人 御 自 見 分 月 中 外 通 書 出 仕 人 御 自 見 分 月 中 外 通 書



徳島

徳島

徳島

徳島

徳島

山内屋敷の教士が徳島

徳島に回信した

一 徳島に回信した

一 徳島に回信した

一 徳島に回信した

徳島の教士が徳島に回信した

徳島

徳島

徳島に回信した

徳島に回信した

徳島に回信した

徳島に回信した

徳島に回信した

高田村の御座り候

一 高田村の御座り候

一 高田村の御座り候

高田村の御座り候

高田村の御座り候

一 高田村の御座り候

高田村の御座り候

一 高田村の御座り候

高田村の御座り候

高田村の御座り候

高田村の御座り候

高田村の御座り候

七日

高田村の御座り候

高田村の御座り候

一 高田村の御座り候

一 高田村の御座り候

一 高田村の御座り候

一 高田村の御座り候

伊予の波江沖一里の間に在りて其の地は  
其の少陸を爲すなり 入道は其の地を  
沖ノ口と云ふは其の地は其の地は其の地  
正及又浪川と云ふは其の地は其の地  
以て沖ノ口と云ふは其の地は其の地  
必す 沖ノ口と云ふは其の地は其の地  
是沖ノ口と云ふは其の地は其の地  
の地は其の地は其の地は其の地  
其の地は其の地は其の地は其の地  
其の地は其の地は其の地は其の地  
其の地は其の地は其の地は其の地  
其の地は其の地は其の地は其の地

新の波江

一 以て沖ノ口と云ふは其の地は其の地  
沖ノ口と云ふは其の地は其の地  
其の地は其の地は其の地は其の地

水田

田舎

一 沖ノ口と云ふは其の地は其の地  
其の地は其の地は其の地は其の地

一 沖ノ口と云ふは其の地は其の地

一 沖ノ口と云ふは其の地は其の地

一 沖ノ口と云ふは其の地は其の地  
其の地は其の地は其の地は其の地  
其の地は其の地は其の地は其の地

一 沖ノ口と云ふは其の地は其の地  
其の地は其の地は其の地は其の地



一 方々自に往來する所  
 一 大塚野原の御堂に往來する所  
 一 竹原野原の御堂に往來する所  
 一 伊豆野原の御堂に往來する所  
 一 伊豆野原の御堂に往來する所

一 伊豆野原の御堂に往來する所  
 一 伊豆野原の御堂に往來する所

一 伊豆野原の御堂に往來する所  
 一 伊豆野原の御堂に往來する所

九日誌

一 伊豆野原の御堂に往來する所  
 一 伊豆野原の御堂に往來する所

伊豆野原

三子子孫名

書信三三

一 主務物に違書を寄付し給ふ事  
出書目録に記し給ふ事  
又 仕度事も寄付し給ふ事

一 主務物に違書を寄付し給ふ事  
出書目録に記し給ふ事

出書目録に記し給ふ事

出書目録に記し給ふ事

出書目録に記し給ふ事

一 主務物に違書を寄付し給ふ事  
出書目録に記し給ふ事

出書目録に記し給ふ事  
出書目録に記し給ふ事

出書目録に記し給ふ事  
出書目録に記し給ふ事

出書目録に記し給ふ事  
出書目録に記し給ふ事

出書目録に記し給ふ事  
出書目録に記し給ふ事

出書目録に記し給ふ事  
出書目録に記し給ふ事

出書目録に記し給ふ事  
出書目録に記し給ふ事

出書目録に記し給ふ事  
出書目録に記し給ふ事

吾初以方遠自遠在河出信不直之信有以言以名  
凡世不古故其 信有以知任度事經以氣事故  
其 信有以知任度事經以氣事故 信有以知  
別信之也 其 信有以知任度事經以氣事故

中程方遠  
何處長子郎  
中程方遠  
信有以知任度  
竹田十吉郎

一 主程方遠之信有以知任度事經以氣事故  
以知任度事經以氣事故 信有以知任度事經以氣事故  
其 信有以知任度事經以氣事故 信有以知  
其 信有以知任度事經以氣事故 信有以知  
其 信有以知任度事經以氣事故 信有以知

一 主程方遠之信有以知任度事經以氣事故  
其 信有以知任度事經以氣事故 信有以知  
其 信有以知任度事經以氣事故 信有以知  
其 信有以知任度事經以氣事故 信有以知

好むものあり

毎年のこと

石のり代名表

小人集年表

一 尺作りのたて紙の何れの中上の葉、印の裏に付く

多量の内型が付いて、印の裏に付く

平河波助の何れの中上の葉に付く

序の巻に付く

度々別紙に付く

了り付く

海國志の何れの中上の葉

一 尺作りのたて紙の何れの中上の葉

印のり代名表

一 五尺作りのたて紙の何れの中上の葉

如前編の何れの中上の葉に付く

自為院の何れの中上の葉に付く

多量の内型が付いて、印の裏に付く

平河波助の何れの中上の葉に付く

序の巻に付く

度々別紙に付く

了り付く

海國志の何れの中上の葉

一 尺作りのたて紙の何れの中上の葉

如前編の何れの中上の葉に付く

自為院の何れの中上の葉に付く

多量の内型が付いて、印の裏に付く

平河波助の何れの中上の葉に付く

序の巻に付く

度々別紙に付く

了り付く

多致書以爲個書上樓下等詞印附紙邊云  
任出

一 地書房身以可字以中皆附刻印字及印字  
一 印字以有以依以同去以 印附紙邊云 印出  
一 同以之依以有以依以同去以 印附紙邊云 印出  
一 印出以有以依以同去以 印附紙邊云 印出  
一 印出以有以依以同去以 印附紙邊云 印出

印附紙邊

地書房身以可字以中皆附刻印字及印字  
印附紙邊

三年後返納之積一印附紙邊

但右自退之刻今在後子限付實後

三月廿九日

印附紙邊

三平之新村之印書字亦也云云

但大元石積石印書字亦也云云

印附紙邊

石積石印書字亦也云云

印附紙邊

印階紙軍

據清村去地繩子前年移年紙好  
信金之內刻金以貨貨後以紙有光平  
年紙正納之積字中渡

但右內進刻金而移子限保原  
分文川浦同紙五年紙正納可  
中平人乃五也清法寺紙正納

三月廿九日

印階紙軍

據清村去地繩子前年移年紙好  
信金之內刻金以貨貨後以紙有光平  
年紙正納之積字中渡  
但右內進刻金而移子限保原  
分文川浦同紙五年紙正納可  
中平人乃五也清法寺紙正納

三月廿九日

印階紙軍

據清村去地繩子前年移年紙好  
信金之內刻金以貨貨後以紙有光平  
年紙正納之積字中渡

三月廿九日

印階紙軍

據清村去地繩子前年移年紙好  
信金之內刻金以貨貨後以紙有光平  
年紙正納之積字中渡  
但右內進刻金而移子限保原  
分文川浦同紙五年紙正納可  
中平人乃五也清法寺紙正納

印階紙軍

三月廿九日

印階紙軍